



2016年2月3日

各 位

会 社 名 株式会社 東芝  
東京都港区芝浦 1 - 1 - 1  
代表者名 代表執行役社長 室町 正志  
(コード番号：6502 東、名)  
問合せ先 広報・I R室長 長谷川 直人  
Tel 03-3457-2100

予算策定プロセス及びカンパニー業績評価制度の見直し等について

当社は、2015年12月21日付「新生東芝アクションプラン」の実施についてにおいて、当社グループに係る構造改革の断行、内部管理体制の強化及び企業風土の変革、事業ポートフォリオ及び事業運営体制の見直し、財務基盤の整備を柱とする経営施策「新生東芝アクションプラン」を公表いたしました。このたび、事業ポートフォリオ及び事業運営体制の見直しの一環として、予算策定プロセス及びカンパニー業績評価制度の見直し等について添付のとおりお知らせします。

当社は、新生東芝アクションプランを実行することにより、株主、投資家をはじめとする全てのステークホルダーの皆様の信頼回復に繋げるとともに、企業体質の変革を図ります。今後も個別の施策について順次公表してまいります。

以 上

## 予算策定プロセスおよびカンパニー業績評価制度の見直し等について

当社は、当期利益至上主義から脱却し、実力に即した実行可能かつ合理的な予算および中期経営計画を策定する観点から、事業ポートフォリオに基づいた予算策定方針を明確にするとともに、カンパニーによる自主自律経営を促すことを目的に、このたび、予算策定プロセスの見直しを実施しました。あわせて、カンパニーの業績評価制度についても、従来の利益重視からキャッシュフロー重視に見直し、資金項目の配点を従来の20%から60%に拡大するなど中長期的な視点に基づいた評価制度へ移行し、財務体質強化・収益性の改善を図ります。

予算策定プロセスでは、これまでの売上・利益拡大を重視したプロセスからキャッシュフロー重視のプロセスに改善します。カンパニー別に Net 有利子負債の限度額を設定し、有利子負債が限度額を超過した場合、経営幹部で審議し、改善計画を策定するなど有利子負債の管理体制を強化します。また、事業ポートフォリオについては、各事業収益性の定量的な評価に加え、市場規模や市場シェアなどの客観的な指標に基づき将来的な事業の成長性を定性的に評価することで、成長性の高い事業については集中的に投資を実行し、成長が見込めない事業は見直しを検討するなど、さらなる事業の集中と選択を進めます。

カンパニーの業績評価制度については、営業キャッシュフローを評価項目として新たに導入するなど資金を最重要評価項目として位置付け、中長期的なキャッシュフローを重視した制度に改定しました。本制度は、今年4月以降に実施する2015年度のカンパニー業績評価から適用します。

また、昨年9月に新設し、キャッシュフローを中心とした実績を基に将来の業績改善に向けた討議を行う業績報告会の報告内容について、社外取締役等に速やかに共有することで、実績重視の管理体制を構築しています。

当社は、キャッシュフロー経営を継続して推進し、財務基盤の改善を最優先の経営課題として取り組みます。また、「新生東芝アクションプラン」を着実に推進し、全てのステークホルダーからの信頼回復に繋げるとともに、強靱な企業体質への変革を図ります。

以上